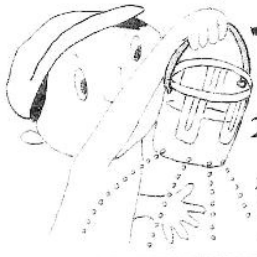


ゆりかご えんだより

2021
7・1



2期(6~9月)のねらい
からだづくり活動を通して
子ども関係の質を高めよう

長かった緊急事態宣言が解除され、「まん延防止等重点措置」に移行されました。この間、保育時間の短縮や家庭保育にご協力いただき、ありがとうございます。少しずつでも通常保育に戻れることを期待しています。

先月の園だよりに、2階クラスの子どもたちの玄関での受け渡しについて書いたところ、数人の方から感想をいただきました。ありがとうございます。

朝、リュックを背負い、振り向きながら「バイバイ」と言て階段へと上がっていく2-3歳児の後姿は、たくましさすら感じます。保育士に促されながら靴下や帽子を脱ぎ、おしぼりやノートを所定の場所に入れると、「自分でやったよ」と誇らしげな表情です。

4.5歳児は夢中であそんでいるところに「お迎えが来たよ〜」と声をかけると、「まだあそんでいたいのになあ。でも、お迎えが来たから帰ろう」と気持ちを切り替えます。この「〜だけども〜する」姿は、乳児から幼児へと大きく質が変わる姿ともいえます。

賛否あると思いますが、宣言が明けたので、保護者が保育室まで入る受け渡し方法に戻すことにしました。

玄関での受け渡しは生活習慣の自立(5歳児は自律)を促す機会になりましたが、やはり、子どものよき理解者となるには家庭と園の連携が大切です。保護者と共に保育をつくらせていく意味からも保育室の中まで入っていただきたいと思うのです。約1ヶ月の受け渡し方法の変更でしたが、これまでのやり方に戻しても、子どもたちが身につけた力を損なうことなく確かたものにしていくのが私たち大人の役割かなと思います。

お迎えに来た保護者が弟妹の準備をしている間、兄姉が事務室で待っていることがあったのですが、それぞれの興味が違って面白かったです。ぬり絵が好きな子、折り紙が好きな子、絵本が好きな子、なぞなぞが好きな子。短い時間なので途中でやめなくてはならないこともあったのですが、初めは納得できず不満げだった子も、「じゃあ続きはまた明日」とすんぽろ帰るようになりました。今日と明日の関係が理解でき、明日に期待がもてるようにならなうのでしよう。

緊急事態宣言中は、心も身体も疲弊気味な大人たちでしたが明日に向かって生きていく子どもたちの姿に励みを受け、前に進んでいこうと思いました。